UCHIDA

D-MOLO

Workware System

UCHIDA WORK-WARE

D-MOLO work-ware platform pole system extension
work surface application it-counter color system

WORK-WARE

変化にあわせて「しつらえ」を最適化する、D-MOLO。

D-MOLO optimizes customization according to various changes

ワークのための最適環境をつくり出す

D-MOLO は、ユーザーにとっての最適なしつらえをつくりあげる道具、という発想から生まれたワークウェアシステム。オフィス家具の概念を超える先進のシステム性能を多様なワークシーンで発揮します。

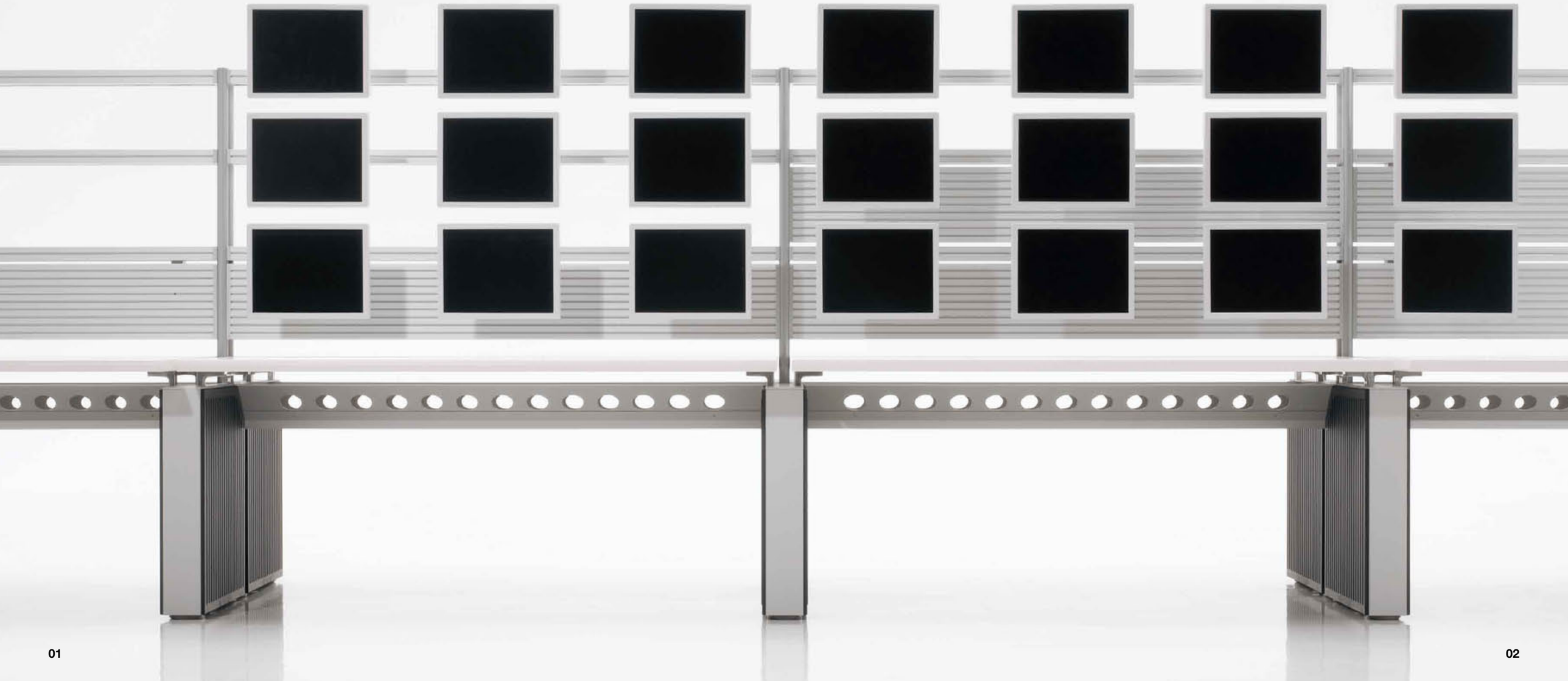
進化するワークウェア

類のない拡張性をそなえ、ワーク環境の変化や IT 技術の革新に柔軟に対応。D-MOLO は、シンプルであるからこそ、ユーザー自身がどのようにしつらえたらいいかを直観的に考えることができ、使いながらさらに進化する、そんなシステムを実現しています。

トータルコスト性

D-MOLO は、必要なときに必要なものだけを組み合わせて、変化に応じてミニマムコストで運用していけるシステムです。長期にわたって活用しつづけるほど魅力を増す、トータルコスト性を発揮します。

D-MOLO is a system work-ware with unique extendability that easily adapts to changes in work environments and IT innovations. Combining only the necessary components to suit needs at hand, operation costs are minimized and total costs are lowered when they are used in the long term.



PLATFORM　システム展開の基盤となる、プラットフォーム。

Platform as a basis for system development

「変わらないもの」普遍的なインフラ

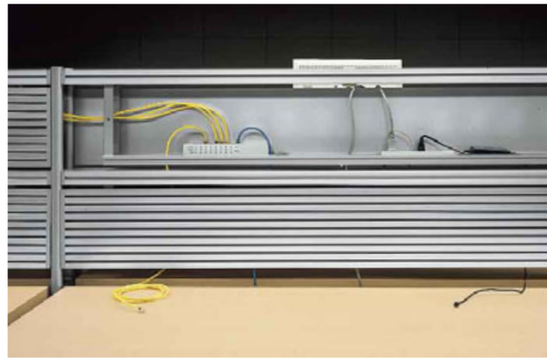
2つの脚にビーム（横板）を架け、ブラケット（天板の台座）を取り付ける。ワークウェアシステムの基盤となる、プラットフォームの最小ユニットです。このユニットを連結させ、ITネットワークのインフラとなる連続したプラットフォームを形成します。

通信ケーブルや電気幹線のための配線スペース

ビームは、通信ケーブルや電気幹線のための配線スペースとなります。シンプルでオープンな構造だからこそフレキシビリティにすぐれ、メンテナンスや更新を迅速かつローコストで実行することが可能です。IT時代のファシリティマネジメントに貢献します。

A continuous platform is created by attaching a unit with built-in beams to the two legs. The beams become the wiring space for IT equipments. Maintenance and updates are made simple with this open structure.

麗澤大学　生涯教育プラザ棟



空中に可能性を拓く、ポールシステム。

A pole system which opens possibilities into the air

▎もうひとつのプラットフォーム

ポールシステムは、D-MOLOの拡張性を垂直方向に発展させるシステムです。 ポールの間にアッパービームを架けて堅牢なフレームをつくり、さまざまな拡張パーツや重量物をアタッチすることができます。

▎ITインフラを立体的に構築する

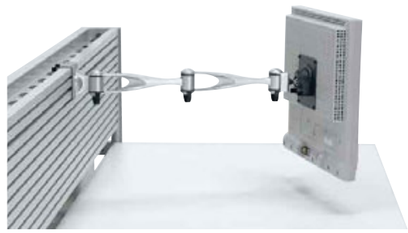
プラットフォームと同様に、情報ケーブルや電気幹線の配線スペースをつくり出すことを可能とするポールシステム。 IT装備の立体的な構築や、建物の配線に縛られない自由な電源配置が可能となります。

▎エアポールで天井配線と直結する

約2.6mの高さまで届くエアポールは、垂直方向のIT装備をさらに進化させます。天井内部の配線設備と直結したネットワークの構築や、液晶ディスプレイやホワイトボードをアタッチしたインフォメーションタワーとしての活用を可能にします。

The Pole System, with various extenda-ble parts, sets up IT equipments with a three-dimensional feel. A network can be created if the air pole that is attached to the ceiling wiring, which reaches a height of approximately 2.6m, is used. It will become an information tower with attached LCD and white-boards displays.

POLE SYSTEM



EXTENSION　シーンの多様さとデマンドに応じる拡張性。

Expandability depending on various scenes and demands

D-MOLOの拡張パーツとアイテム

プラットフォームやポールシステムに取り付ける、さまざまな拡張パーツやアイテムを用意。デスクトップパネル、シェルフ、照明、液晶ディスプレイなど、ユーザーの要求に応じた機能性を拡張することができます。取り付けは簡単に、組み替えは最小限に。システムと連携するオプションとして、ワゴン、テーブル、キャビネットなどもラインナップしています。

システム・アップデートを図りつづける

さまざまなワークシーンをサポートし、IT技術の進歩に最適な対応性を発揮していくために、D-MOLOはシステム・アップデートをつねに図っていきます。「変わることのない」プラットフォームと、絶えず見直しを行い「変わりつづけていく」拡張パーツ。普遍性と特殊性が無理なく両立するシステムだということが、D-MOLOならではの対応力です。

D-MOLO has a great lineup of extension components and options, such as desktop panels, shelves, lighting, liquid crystal displays, wagons and cabinets. We are constantly planning system updates in order to respond to progresses in IT technology.

WORK SURFACE

ワークサーフェイスにそなわる性能。

Performance of work surface

必要なカタチはワーカーの数だけ存在する

ワークサーフェイス（天板）の形状、配列、そして素材の感触や美しさは、ワークのための機能として重要なことです。D-MOLOのワークサーフェイスは、強度、耐用性、機能性とコスト性をそなえ、数多くのバリエーションをラインナップしています。

標準タイプだけで72種類のバリエーション

ホワイトと木目の標準タイプのほか、浮遊感のあるガラスタイプや会議用に特化した天板も用意。高さはブラケットを上下調節して700·720·740mmの3段階で設定可能。天板の間には、拡張パーツを装備するための隙間を設けています。

The shape and materials used in the top panel (work surface) are important factors of their functions. There is a wide range of D-MOLO top panels with steel, wood, and glass types. There are three height levels to choose from and setup is possible.

麗澤大学　生涯教育プラザ棟

APPLICATION　ワーカー自身が、使いながら、つくりあげる。

Workers create, modify and complete their own system by using them

D-MOLO がつくり出す多様なワークシーン

普遍的な性能をそなえるプラットフォームを基盤として、デスクトップパネル、液晶ディスプレイアーム、PC 内蔵脚、シェルフ、テーブル、キャビネットなどさまざまな拡張パーツをラインナップする D-MOLO は、ワークシーンの多様さに柔軟に対応します。

オフィスでないシーンへの適用

オフィスはもちろんのこと、会議室、役員室、オペレーションセンター、メディアセンター、教育機関などにも適用可能。従来のワークステーションとは一線を画す対応力は、新しいシーンをつくり出します。

スタイリッシュなデザイン性

オフィス家具然としたデザインから抜け出たスタイリッシュなデザイン。機能性とスタイルを両立させたデザイン性がそなわるからこそ、D-MOLO は新しいワークプレイスで多様な適応性を発揮します。

D-MOLO will respond flexibly to any work situations. In addition to superior functionality, the stylish design elements are suited to various situations, including offices, conference rooms, executive rooms, operation centers, media centers and educational facilities.

IT-COUNTER　人との出会い、IT装備カウンター。

IT-equipped counter which best suits meeting places

▎D-MOLOから生まれる出会いの場

IT 装備を自在にそなえることができる D-MOLO は、企業のレセプションカウンターや、金融機関、官公庁、店舗での接客コーナーに新しいかたちを提案します。

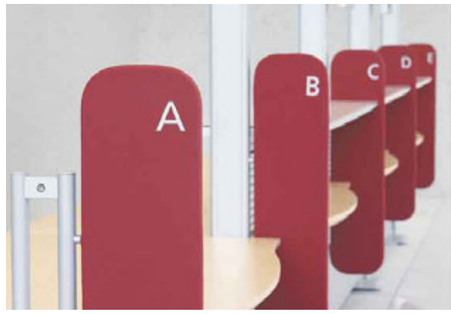
▎間伐材をセットしたバーカウンター

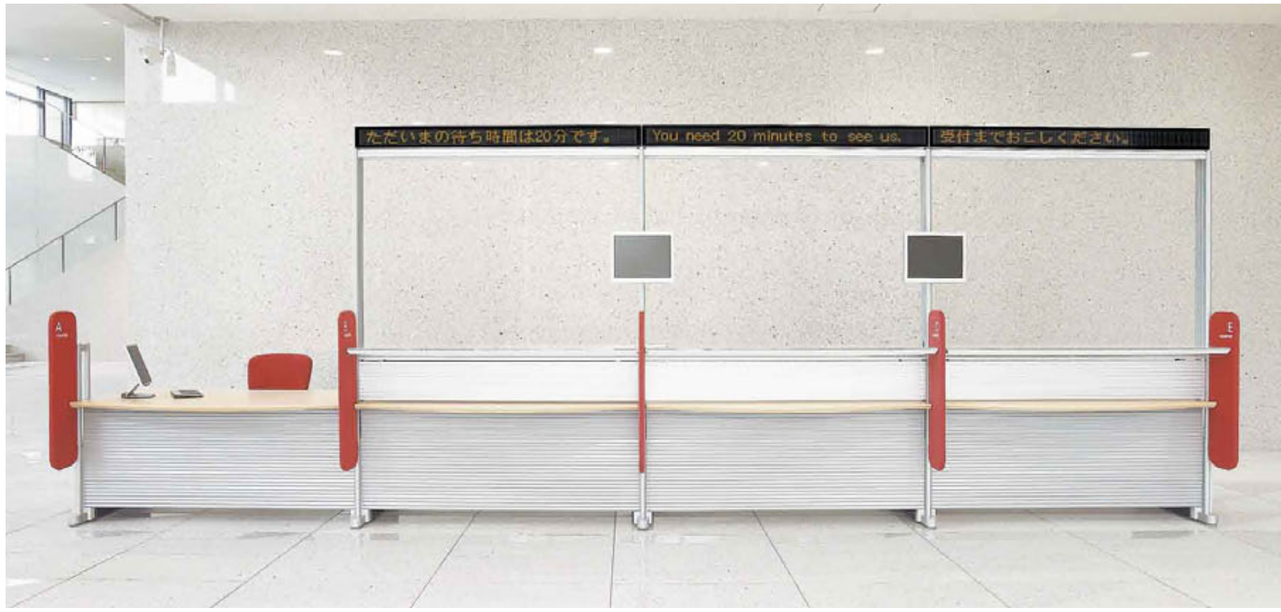
たとえば、ワークサーフェイスに杉やカラ松の間伐材を用いたバーカウンターは、お酒を飲みながらインターネットを利用したり、遠隔地にいる友人と趣味や仕事の会話を楽しむといった、新しいコミュニケーションシーンの提案です。

▎D-MOLOカウンターは企業の顔

レセプションや受付などでは、サインボードや電子掲示板、多くのディスプレイをマウントし、さまざまな情報コンテンツを配信することが可能。 情報装備性をそなえるD-MOLOカウンターは、人と人が出会うシーンで、新しい企業の顔を提案します。

The delivery of various information contents is possible by mounting signboards, electronic notice boards and displays in the reception or front desk. It will give your business a completely new face. The D-MOLO bar counter is the‘new face’ of communication.





阿吽の呼吸は、なぜ生まれるのか？
組織だけでなく、「場」も変わらなければなりません。
D-MOLOデザイナー 押野見邦英インタビュー

聞き手 若杉浩一（内田洋行）

Where does 'AUN-NO-KOKYU
(meaning same wavelength in Buddhism Term)' come from?
Change the space, not only the organization.

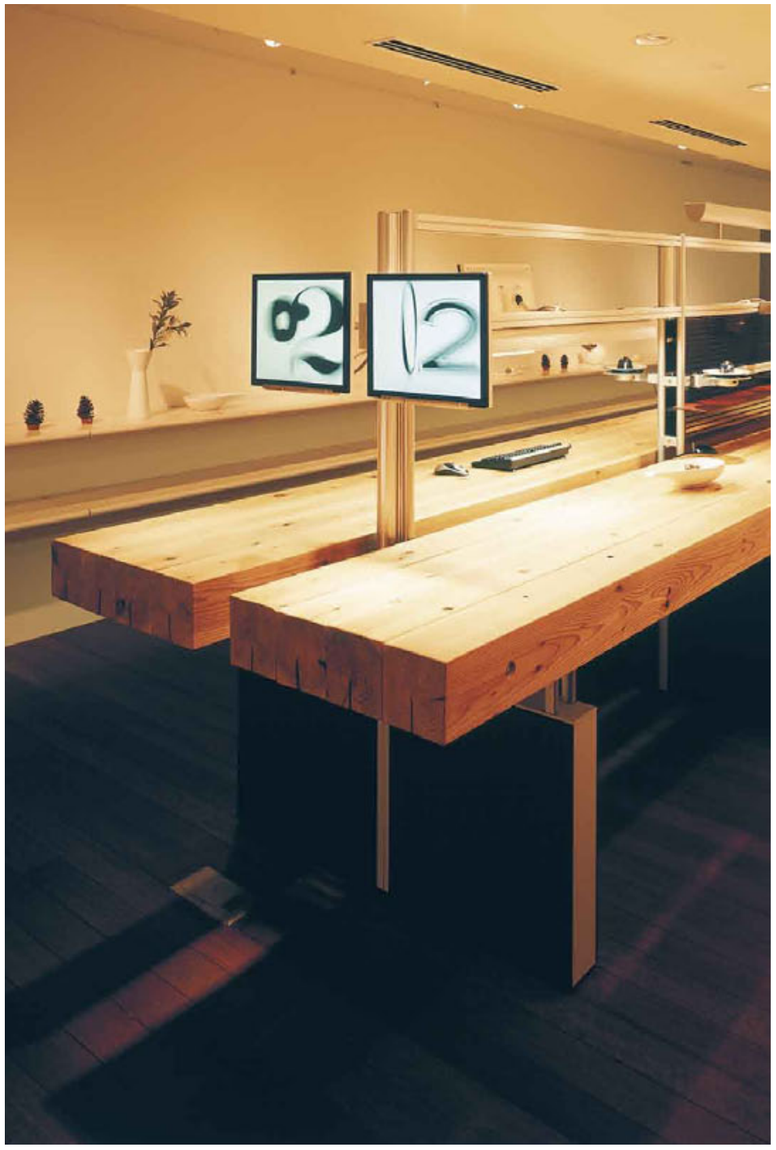
D-MOLO WORK-WARE SYSTEM

手近な目標を掲げないこと、
安易な完成で終わらせないこと。
Do not set an easy target.
Do not satisfy with easy completion.

押野見 2001年に発売してからの数年間、さまざまな企業で組織のフラット化やフリーアドレスの試みがなされたり、そういったワークプレイスの変化に対応して、D-MOLOは共に歩んでる感がありますね。

若杉 システムと称するワークステーションは他にもありますが、D-MOLOの独自性は、作り手側からのお仕着せでなく、ユーザーが自分で使いこなす余地がシステムにあるからだと思います。

押野見 手近な目標を掲げず、安易に完成させない。だからこそ、ちゃんとしたシステムになり得たのでしょう。日本の企業の7割が採用している、島型レイアウトを念頭においたのも良かったと思います。欧米のキュービクルなレイアウトが先進と思われた時期もありましたが、集中とコミュニケーションの両方が図れるという点で島型は見直すべきだろうと。IT対応は言うまでもなく必須事項として、私たちは「場」に目を向けました。組織だけでなく場を変えようという動きは、いまや世界的な動きです。ユビキタスとかテレワークに対応しながら、同じ場所で一緒にワークすることでの「阿吽の呼吸」的なもの。D-MOLOは、暗黙知の形成を重視してきたわけです。



D-MOLOで、まさかバー!?
電脳化とお酒の共通点とは。
A bar in D-MOLO!? What is the common feature of information technology & liquor?

若杉 先日オープンした、アジアを拠点にグローバルな市場展開をめざすオフィス家具ブランド、「Ares」台湾ショウルームに D-MOLO が置かれているのですが、「新形態オフィスショウルーム」として、現地のテレビや雑誌で大々的に報じられていました。その中でも、D-MOLO が置かれたコーナーは、最も注目されていました。やはり新しさを感じ取ってもらえたのだと思います。

ITデバイスを装着したD-MOLO

押野見 台湾の「Ares」に置かれた D-MOLO で注目を集めたのは、杉の天板をセットしたバーですよね。オフィス家具の関係者も現地のマスコミも、「電脳」オフィスとは何か、D-MOLO とは何かを理解しているのだと思います。D-MOLO は 3 つの方向で展開してきました。一つは、ワークステーションの基本といえる水平方向の展開。もう一つは、電柱のようなポールシステムによる垂直方向の展開。これにより、IT 装備の拡張性が高まりました。そして、三つ目は、一般的なオフィスにとどまらない、「場の拡がり」ですね。オフィスにバーというのは、新しいコミュニケーションの可能性ということです。オフィスでお酒を飲もうというのではなく、そういう場から生まれる可能性を、マスコミや経営者に感じ取ってもらえたのは驚きです。

若杉 D-MOLOでまさか、バー？ みたいに当初は考えもつかなかった使われ方が生まれてきましたね。あるメーカーの生産ラインのコントロールセンターで採用頂いたのを見たときもプラズマディスプレイとモニターがたくさん装着されて、開発に携わった私自身が、これがD-MOLOなのかと驚いた程です。

押野見 先ほど若杉さんが言ったように、D-MOLOのシステムを真似できないのは、コンセプトが違うからなのです。デザインは、コンセプトですから。D-MOLOのシステムは、時間軸の上でこれまで矛盾とされていたことでも解決できたり。そういう点が、ユーザーにとっては自分たちにふさわしいようにカスタマイズできることにつながるんでしょうね。

若杉 アジアでもD-MOLOは注目を集めますが、感心したのは彼等がD-MOLOのコンセプトや新しさをきちんと理解し、オリジナルデザインとして評価し自分達の可能性を盛り込もうとしていることです。アプリケーションの展開がアジアまで拡がっている。

「寝ること」と「食べること」、
つきつめればワークのための環境。
To sleep, to eat. That is to say, thinking over.
The environment of workspace.

押野見 オフィス家具然とした家具でないものが、これからのテーマなんじゃないでしょうか。

若杉 今後のテーマとしたいことは、寝ることと食べることです。すでに押野見さんと開発を進めていますが、特別な空間をつくるのではなく家具によって、寝たり、食べたり、仕事をしたり、ミーティングをしたり、行為を連続させることができないか、ということです。○○用家具って多過ぎますよね。

押野見 オフィス家具と家庭用家具をこれほどはっきり分けているのは、日本だけかもしれません。海外ではその境界がはっきりしていなかったり、その傾向は今後進んでいくと思われます。オフィスにも自宅のようなホスピタリティーがもっとあっていいはずです。ワーカーひとりひとりの働く価値にふさわしい場づくりというのかな。つきつめれば、人間が

使うものということ。ワークのための環境として捉えること、それがD-MOLOの原点でもあります。

若杉 ところで押野見さん（スケッチを書きながら）、今度ですね、D-MOLOの次期開発でこんなものをつくりたいと思うんですけど。

押野見 う〜ん、面白いじゃないですか。それ、やりましょう。じゃあこんな感じはどうですか？

（開発談義はさらに続く 次号へ）

押野見邦英
Kunihide Oshinomi
1941年東京生まれ。1965年 横浜国立大学工学部建築学科卒業、同大学の助手を務めた後、1996年鹿島建設建築設計部入社。建築設計部長を務めて2001年に退職し、現在k / o design studioを主宰する。
横浜国立大学大学院、新潟大学非常勤講師。
超高層ビルからレバーハンドルまでのデザインを手がけ、プロダクトは海外のメーカーからも多く発表され世界的な評価を受けている。ドイツ・IFデザイン賞をはじめ数多くのデザイン賞・建築賞を受賞。

Born in Tokyo, 1941. Graduated from, Yokohama National University's Department of Architecture, Faculty of Engineering, in 1965. After serving as teaching assistant at the university, he joined Kajima Corporation's Architecture division in 1996 as division chief until resigning in 2001. He currently heads K/O design studio and is an Adjunct Professor at Yokohama National University Graduate School and Niigata University

若杉浩一
Kouichi Wakasugi
デザイナー。1959 年 熊本生まれ。1984 年 九州芸術工科大学卒業後、内田洋行入社、現在に至る。
デザイナーとディレクターの役割、また、社内と社外を枠にこだわらない活躍でさまざまなプロジェクトに参画。革新的なこのワークウェアシステムを商品化に導いた。

Designer. Born in Kumamoto, 1959. He has been at Uchida Yoko since joining in 1984 after graduating from Kyushu Institute of Design.

性能を発揮する色、D-MOLOカラーシステム。

Colors representing its performance - D-MOLO system

COLOR SYSTEM

1. ワークサーフェイスカラー

- ピュアホワイト（標準色）
- リマインドメープル（標準色）
- ストレインウッド（カンファレンス用）
- クリアガラス

2. 脚カバーカラー

- オフホワイト
- ブラック
- バーガンディーレッド
- ターコイズブルー
- シルバーメタリック

3. ファブリックカラー

- ミッドナイト（MN）
- エッグプラント（EP）
- チョコ（CH）
- テラコッタ（TC）
- カスタード（CU）
- アッシュ　（AS）※特注色

4. 塗装カラー

- ホワイトグレイ（N-8）
  脚本体／ワゴン／収納
- シルバーメタリック
  ポールシステム／補助脚／サイドテーブル

5. ストレージサイドパネルカラー

- オフホワイト
- ブラック
- バーガンディーレッド
- ターコイズブルー
- シルバーメタリック

株式会社 内田洋行
〒104-8282　東京都中央区新川 2-4-7
お客様相談センター　0120-077-266
UCHIDA URL　http://www.uchida.co.jp

AL・2164-3・0808Tx30AK